

未来を動かせ ~ ZERO CARBON ACTION ②

企業と地方公共団体とのマッチング会

日時: 2025年10月6日(月)

会場:全国市長会館 2階大ホール



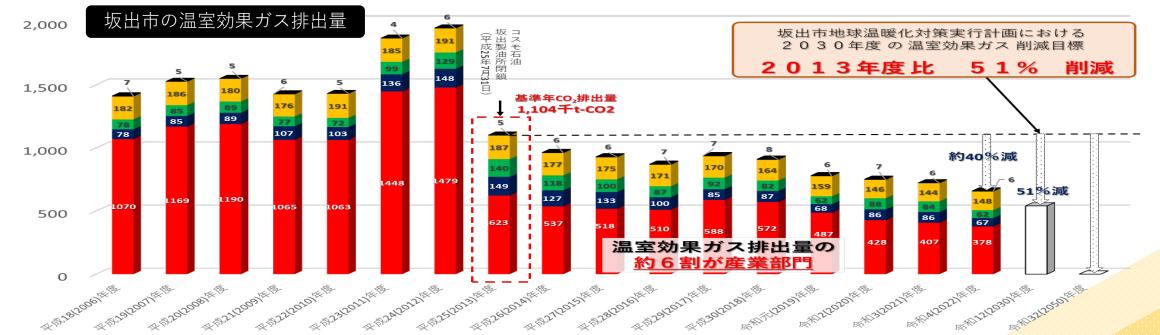
坂出市HP

1. 坂出市の地勢



ライオン ケミカル







ブルーカーボン

海洋生物の作用により、大気中から海中へ吸収された二酸化炭素由来の炭素

ブルーカーボン生態系

ブルーカーボンを隔離・貯留する海洋生態系

海藻藻場

「ガラモ場」「コンブ場」「アラメ場」が主要



岩盤などの固くて安定した基質の上に 定着します。海底が岩盤で泥がないた め、海藻類の藻場自体には炭素を貯留 する機能はありません。

海草藻場

「アマモ」が主要種



進化の過程で陸域から海洋へ回帰した 被子植物。海中で花を咲かせ、できた 種子で繁殖するとともに、海底に根と 地下茎を張りめぐらせ、株を増やすこ とで分布を広げる。

塩性湿地·干潟

アツケシソウやハママツナ、ハマサジなどの植物



海岸部や潟などの、やはり潮汐の影響により海水が侵入する場所。

マングローブ林

熱帯や亜熱帯の沿岸域

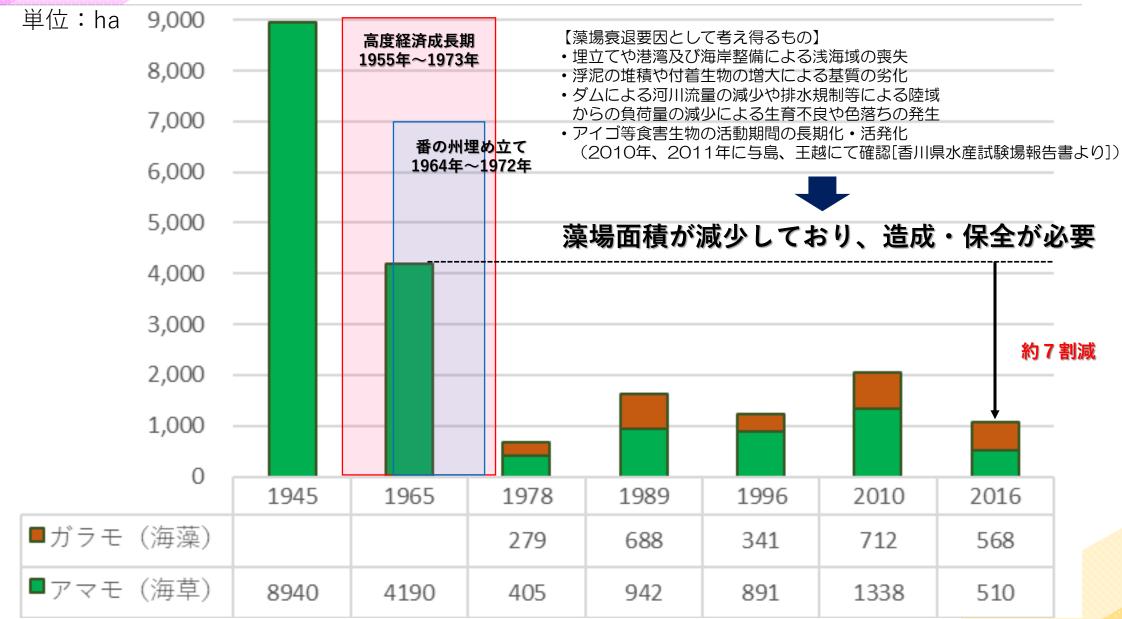


インドネシアやマレーシア、ミャンマーなどに多くあり、日本でも鹿児島や沖縄などにある。草体が大気中に出ているため、大気中の二酸化炭素を直接吸収。









出典:「香川県海域における藻場ビジョン」より作成

4. 実現していきたいこと







藻 場 造 成 構 造 物 沈 設 に よ る 藻 場 再 生 事 業



藻場造成構造物の設置場所の拡大を進め、温暖化対策と漁場の回復を進めたい



環境学習による次世代への継承







学生、児童に深く楽しく学んでいただける大規模な環境イベント等を開催したい

5. ブルーカーボンも含めた脱炭素に向けたチャレンジ















- ・市民、事業者を巻き込んだ**地域ぐるみの脱炭素推進**にかかる手法
- ・施策を推進する際の**コスト(国、県の補助金等の活用、事業者との連携**)
- ・近隣市町との連携
- ·新技術を活用した施策の検討

脱炭素事業に対する更なる公民連携の必要性



施策

- ・PPAモデルの普及
- ・既存ストックおよび新築建築物のZEB化、ZEH化
- ・電気自動車(EV)の普及促進

など

- ・水素等新エネルギー分野(市域全体の水素戦略等)の検討、具体化
- ・ブルーカーボン等吸収源対策 (ブルークレジット化含)
- ・ペロブスカイト型太陽電池などの利活用、常用化
- ・スマート農業関連など

新技術の導入 実証事業など

企業版ふるさと納税の活用

(法人税等から最大で約9割を税額軽減)

制度を活用した プロジェクトの立ち上げ







企業版ふるさと納税による 公民連携



社会 • 地域 貢献

全国的な課題としての地球温暖化対策を自治体(行政)と進めることにより、CSRおよび自社ブランド力の向上につながり、社内エンゲージメント向上にも大きな影響を与えることができる。

・県内にも率先した温暖化対策 事業の推進

多様な主体との新たな関係の構築

本市との強固な関係を構築することにより、**市内約2,700事業所等 へのPR**ができ、新たな販路開拓 等と**次世代に向けたイメージ向上** につながる。

- ・積極的な広報活動
- ・環境イベント等への招待・紹介

新 業 展 開

地域から生の声を聴けるため、 **自社事業に関連する新しいニー ズや市場の発見**につながる。

- ・本市とのパートナーシップ構 築による情報の共有
- ・地域との交流機会の創出

